



『From7 第47回 歯科医師 歯科衛生士 歯科技工士 コーディネーターMeeting』

日時：平成24年7月4日(水) 19:15-21:00

場所：白鳥歯科インプラントセンター2F 研修室

演題

1. 【抜歯即時埋入時にCTGを併用した症例報告】

歯科医師 土屋 厚 (栄光歯科医院)

『上顎前歯部に単独抜歯即時インプラント埋入を初めて行なったケースです。頬側骨には損傷はないが、歯肉の性状が薄かった為、2-2にCTGを併用しました。ファイナル装着後、1年以上経過し、修復物周囲歯肉（特に隣接補綴修復歯）が発赤・腫脹してきました。炎症の改善を図る目的でエマージェンスプロファイルのContour 調整等、補綴的対応を試みております。ご助言、ご指導の程、宜しくお願い致します。』

2. 【超音波切削装置の臨床応用】

歯科医師 望月 研司 (望月歯科医院)

『近年、私たち歯科医を取り巻く環境は厳しいものがあり、患者のニーズは上がる一方に感じられます。よって、より簡便で低侵襲な治療が望まれています。治療に対する予知性を考慮に入れた時、私ども歯科医師は限られた時間の中で正確な手技を求められます。そこで超音波切削装置を利用し安全かつ低侵襲に治療を行った症例を供覧していただきみなさんの評価を頂きたいと思えます。合わせて5月に白鳥先生に同行させて頂いた海外セミナーの様子も報告させていただきます。』

3. 【歯周病治療時代のインプラント治療を再考する】

歯科医師 雨宮 啓 (藤沢歯科ペリオ・インプラントセンター)

『インプラント治療時代において、歯を保存するのか、あるいは抜歯か？の選択は、いつも悩むテーマである。インプラント治療の進歩により、他の補綴方法より咬合支持能力が飛躍的に向上し、残存歯の動揺コントロールが容易になり咬合負担を軽減できるなど、歯周病治療にとっても有益なオプションとなる。一方で歯周病が進行し、予後不良と思われる歯を抜歯するかどうか、その判断基準は複雑なものとなる。そこで今回、自分なりのエビデンスとエクスペリエンスをまじえながら、どのような抜歯基準を設けるべきなのかディスカッションしたいと思う。』